

令和元年(平成31年)度

東京都立江東特別支援学校 学校経営報告

校長 田邊 陽一郎

I 目指す学校像(抄)

- (1) 生徒
 - ・心身ともに健康で安心して過ごせる学校
 - ・卒業後の自立と社会参加に向けて、自分の力を発揮し伸長できる学校
- (2) 保護者
 - ・子供を安心して任せ、指導方針や内容がよく分かる学校
 - ・様々なことが相談でき、情報が得られる学校
- (3) 地域
 - ・地域に開かれ、地域から期待され、地域とともに歩む学校
 - ・校内・校外の環境整備を心がけ、地域の財産となる学校
- (4) 教職員
 - ・特別支援教育の専門性を磨き、協力し合う学校
 - ・職業人としての自覚と責任をもち、法令を遵守し、高い規範意識のある学校

II 中期的目標

- (1) 自立と社会参加を目指した教育の充実
- (2) 保護者や関係機関との連携 個別の教育支援計画、進路相談、支援会議、等
- (3) 長期的な視野に立った教育環境の整備
- (4) 行政系職員の学校経営への積極的な参画
- (5) 教職員のライフ・ワーク・バランスの推進

III 今年度の取組と評価

(注1) 所管の略号：教務部=E、研究推進部=P、ICT情報部=I、進路指導部=W、生活指導部=L、特別支援部=S、保健給食部=H、経営企画室・主事室=M

(注2) 各項目の数値目標に示した内容は各項目に該当する平成30年度の学校評価アンケート(保護者対象)の質問項目。「あてはまる」をA評価、「どちらかというにあてはまる」をB評価、「わからない」をZ評価で示した。記載の数値は各質問項目に対する「A評価」「B評価」「Z評価」の数値の平均値を示す。

<総括>

A 学習指導 今年度も外部専門員からの生徒の行動観察や実態把握を基にした教員への助言を活用し授業改善を図った。一人1回は研究授業を実施し、管理職やサブ授業者からの助言を受け、授業改善を進めた。オリンピック・パラリンピック開催の前年になり、東京都の事業としてゲストティーチャーを招いての教室を開き、スポーツや文化に親しむ機会を設けた。職能開発科では市民講師が授業に参加し、産業現場に近い実践的な授業を推進した。

普通科・職能開発科とも地域における販売活動や江東区役所・城東特別支援学校の清掃活動など、外部の方から直接評価を受ける場を増やし、生徒の自己肯定感や達成感の育成を図った。職能開発科のレストラン(KOTOキッチン)には近隣の住民や会社員の利用もあり、450名を超える来客を得た。普通科の広報活動の一環として、木工班の作業製品や農園芸班が管理する観葉植物を配置した。地域向け販売会も8回計画通り実施できた。昼休みの図書館開放を実施した。

研究活動としては、特別支援学校学習指導要領の大きな特徴である「自立活動」を取り上げ、生徒一人一人の課題設定や支援の工夫について校内で班別協議を行った。通知表に「身に付けるべき4つの力」と合わせて記載し、生徒への意識向上にもつなげる試みを行った。

新型コロナウイルス感染症対策のため、3月2日から臨時休業となり、教育活動が停止した。家庭や放課後等デイサービス事業所で対応できない一部の生徒については、学校で活動を行った。

《方針》今年度方針を継続する。オリンピック・パラリンピック教育については、総括し3年度以降の実施内容を整理する。教員の一人1回研究授業を勤務年数別に隔年実施とする。4年度本格実施の学習指導要領についての研修とともに「自立活動」の校内研修を継続する。

B 生活指導 生徒同士の校内外でのトラブルや問題行動が時々見られ、予防的指導及び対応を継続して行い、必要に応じて個別指導を行ってきた。教員の指導に対して相談を受けた場合は、

早期に対応し再発防止に努めている。教員を対象とした適切な指導についての研修や授業観察は今後も継続していく。防災対応については、より現実的な避難訓練・災害訓練を計画的に実施するとともに、常に見直しを図ってきた。

《方針》生徒の健全育成については引き続き予防的対応を継続する。2年度より女子生徒用のスラックスを用意する。今年度の台風15号・19号の接近時の避難勧告などへの対応についてはPTAや町会、近隣の特別支援学校とも連携し、対応策を検討していく。

C 進路指導 普通科の作業班構成を見直し、2班を新設した。普通科・職能開発科とも製造関係は販売会を開催し、事務・清掃関係は校内を中心に作業を行い、それぞれの役割を果たした。現場実習・インターンシップ・就業体験は計画通り実施できた。3学期になっても進路先が確定せず、3月になっても福祉事業所で現場実習を行う生徒がいた。

《方針》「進路ハンドブック」の配布や各区で開催する福祉説明会において情報提供を行ってきたが、個々のニーズが異なるため、個別の進路相談日や学級担任との面接を活用して、さらに情報提供していく必要がある。また、PTAとも連携し、学習会や見学会の機会を設けていきたい。

D 健康づくり 教員を対象にアレルギー対応研修を行った。生徒の健康状態やケガへの対応については学級担任と養護教諭が連携し、必要に応じて家庭への連絡や医療機関での受診を行った。インフルエンザの感染者は1月末時点で9名、手洗い・うがい・教室の換気等の対応を指導した。食育相談は2件、発達相談は9件の相談者があった。水分補給の補助手段として飲料の自動販売機を設置した。

《方針》基本的に継続する。医療的ケアの生徒の入学を受け、体制を整備する。

E 特別活動・部活動・開放事業 修学旅行と文化祭の時期を入れ替え、文化祭を3学期に戻した。山梨移動教室は台風による高速道路の閉鎖があり実施が心配されたが、予定通り実施できた。部活動のうち、球技大会では優勝や上位、陸上大会でも入賞者があった。ダンスクラブが地域での継続的な活動を評価され「ふれあい感謝状」を受けた。開放事業については体育館・校庭・プールを合わせて延べ270回の利用があった。なお、新型コロナウイルス感染症対策のため、3月の臨時休業期間の部活動及び開放事業は中止した。

《方針》宿泊行事の時期については今年度と同様とし、修学旅行は広島・岡山方面に変更する。部活動指導については会議設定や教員の休憩時間の関係から、現状程度とする。休日の部活動については、引き続き保護者の協力をお願いしたい。

F 特別支援教育・教育相談 普通科の入学相談は60名、職能開発科選考には39名の出願があった。中学校・高校・特別支援学校からの要請を受け、特別支援教育コーディネーターや進路指導主任等を派遣した。

《方針》今後も区や学校の要請に応じて、研修会・説明会等に教員を派遣していく。普通科入学相談について、説明会の回数や配布資料などは整理し、学校・保護者双方の負担を軽減する。

G 広報活動/H 組織・体制/I 研究・研修・OJT

校外向けの掲示板が2月中に設置できる見込みになった。校内見取り図や出入り口の掲示等が分かりにくいとの評価を受け、改善していく。ホームページは100回を超える更新を行った。

教員の「働き方改革」の指針を受け、月当たりの時間外勤務が45時間を超えないように啓発・実行を進めている。学校閉庁日の設定、業務時間以外の電話は録音音声による対応とし、必要な場合は学校携帯電話で対応した。

《方針》ホームページにある古い情報は3年間を期限として更新していく。国及び東京都による教員の「働き方改革」の方針を受け、45時間を超える時間外勤務を制限する。保護者・関係機関にも引き続き理解を求めていく。

<重点目標と数値目標に対する評価>

◎は十分達成または計画通り実施、○はおおむね達成、△今年度時点では達成できずまたは中止

A 学習指導

《数値目標》個別指導計画を活用し、根拠に基づいた指導が行われている。／わかりやすい授業が行われている。

30年度A評価50.8%、B評価42%、Z評価3.6%

31年度目標A評価60%⇒A評価49.6%、B評価43.1%、Z評価5%

- 1 教育課程の適正な実施、評価・改善。(カリキュラム・マネジメント) <E>○
- 2 「わかる授業」 <P>
 - (1) 「江東特支 指導の心得10か条」を基本とした適切な指導の徹底。○
 - (2) チームティーチングに基づく毎時の略案の作成。○
 - (3) 「育成を目指す資質・能力3つの柱」を意識した指導 板書等による明示。○
 - (4) 外部専門員・市民講師との協働。◎
- 3 指導の専門性の向上<E、P> *③④は再任教員、臨時的任任教員、養護教諭、非常勤教員を除く。
 - (1) 基礎的環境整備の推進。◎
 - (2) 生徒一人一人に応じた「自立活動」の指導の充実。◎
 - (3) 一人一回研究授業。観点別評価に基づく授業評価。「授業自己点検シート」の活用。◎
 - (4) 教材・教具の開発及び公開、一人一点以上。△
 - (5) 長期休業中の研修推奨、研修受講者は授業実践を全教員に還元する。○
- 4 多様な学習機会の設定<E、P、I>
 - (1) 「役割の力」地域に貢献する力を育てる。(「KOTOキッチン」、地域向け作業製品販売会、外部作業、清掃、植栽管理 等)◎
 - (2) オリンピック・パラリンピック教育の推進(スポーツ、伝統・文化、国際理解 等)◎
 - (3) ICT機器(タブレット端末)を活用した授業の推進、研修会1回◎
 - (4) 各種検定への指導の推進(漢字、パソコン、喫茶、清掃 等)◎
 - (5) 読書活動の充実 読書週間を含め、昼休みの図書室開放日の設定◎
- 5 新学習指導要領の内容理解と計画化 「主体的・対話的で深い学び」<E、P>
 - (1) 改訂の要点の理解 キーワードをもとに○
 - (2) 実践を通じた「自立活動」の理解○
 - (3) 生活単元学習など「教科等を合わせた指導」の指導内容の整理○

B 生活指導

《数値目標》人権に配慮した教育が行われている。／生徒の悩みを受け止め、適切な指導が行われている。／日頃より防災意識の育成が適切に行われている。

30年度A評価51%、B評価35.2%、Z評価10.2%

31年度目標 A評価60%、Z評価5%以下⇒A評価50.2%、B評価39%、Z評価7.2%

- 1 健全育成の充実<L>
 - (1) 基本的生活習慣を基盤に「生活に役立つ4つの力」を育てる。○
 - (2) 「学校生活のしおり」に基づき、ルール、マナー、規範意識を育てる。通学指導の充実、車内マナーや非常時の対応への指導。「生徒の心得」「SNS江東ルール」等の活用。○
 - (3) 「移動の力」一人通学指導計画に基づいた段階的、継続的な指導の実施。○
 - (4) 「本校いじめ防止基本方針」に基づく、いじめ等不適切な行動の未然防止。発生時は支援会議による早期対応・解決を図る。○
 - (5) 反社会的行動、非社会的行動への組織的対応。(自殺防止を含む)△
- 2 安全な学校づくり・危機対応<L>
 - (1) 事故0を目指す。毎月17日を「事故0DAY」に設定。◎
 - (2) 危機管理体制を整備し、防災対策を進める。実効性の高い避難訓練の実施。◎
 - (3) 地域と連携した一泊二日宿泊防災訓練、福祉避難所開設訓練、総合防災訓練 等 ◎
 - (4) 3・11を忘れない「江東防災の日」の設定 ◎

- (5) スクールバスの安全な定時運行 乗務員との連絡会、教員添乗 ◎
- 3 人権を尊重した教育の推進<副校長、L>
- (1) 体罰や不適切な指導を行わない。生徒の模範となる言動、態度、服装の徹底。研修の実施。学校評価アンケート共通項目の設定。啓発ポスターの作成・掲示。△
- (2) 外部からの支援が必要な生徒に対する迅速な対応、外部機関との連携。◎

C 進路指導

《数値目標》将来の生活を視野に入れた指導が行われている。／卒業後の進路や福祉について、適切な情報提供や説明が行われている。

30年度A評価43.2%、B評価48.8%、Z評価4.8%

31年度目標 A評価60%⇒A評価50.8%、B評価41.5%、Z評価2.7%

- 1 自立と社会参加を目指したキャリア教育の充実<W>
- (1) 普通科 作業学習の充実 外部専門員と協働、製品開発、工程改善、販路拡大 ◎
- (2) 職能開発科 市民講師と協働、指導の充実と改善、販路拡大 ◎
- (3) 「職業」「キャリアガイダンス」の授業実践と改善 ○
- 2 一人一人の実態と希望に即した実習先、進路先の開拓<W>
- (1) 全生徒の進路希望の実現を目指す。企業来校数80社、企業新規開拓30社以上。◎
- (2) 福祉事業所の見学、福祉事業所職員との懇談・見学の受け入れ ○
- 3 保護者への情報提供、相談機能の充実<W>
- (1) 進路相談の計画的実施5回以上、進路便り10回発行。○
- (2) 進路掲示板の新設、進路指導ハンドブックの更新 ○

D 健康づくり

《数値目標》アレルギー対策と緊急対応は、適切に行われている。

30年度A評価63.2%、B評価21.6%、Z評価14.4%

31年度目標 A評価70%、Z評価5%以下⇒A評価62.3%、B評価26.2%、Z評価9.2%

- 1 安全でバランスの取れた給食を提供する。食育相談を随時実施し、健康の保持増進を図る。食育相談10回以上、食育だより発行2回以上<H、栄養士> ○
- 2 学校保健委員会を2回以上開催し、生徒・教職員の感染症対策や研修を実施する。<H>○
- 3 医療的ケアや食物アレルギーへの対応、アレルギー対応訓練（エピペン使用方法研修、薬物乱用防止教室、がん教育を行う。研修会には保護者の参加も呼びかける。<H、L> ○

E 特別活動・部活動・開放事業

《数値目標》学校行事（体育的行事・文化的行事・宿泊行事）の時期や内容は適切である。

30年度A評価47.2%、B評価37.6%、Z評価5.6%

31年度目標 A評価60%⇒53.1%、B評価36.2%、Z評価3.1%

- 1 生徒が生涯にわたりスポーツや文化に親しみ、自主・自発的に活動する態度を養うことをねらいとして、部活動の振興を図る。部活動は生活指導部が統括する部活動指導者連絡会が所管する。体罰や不適切な指導を絶対行わない。熱中症対策を徹底する。<L> ◎
- 2 地域や近隣校の行事等で部活動の成果を発表する。保護者の協力も要請する。<L> ◎
- 3 規定に基づき学校施設を開放し、有効活用を図る。年間150回を目標<M> ◎

F 特別支援教育・教育相談

《数値目標》各項目を参照

- 1 授業参観6回 学校公開2回<E、S>
- 2 特別支援教育のセンター校として、校内からや、近隣校からの相談に応ずる。校内支援会議30回以上、校外支援5回、特別支援教育通信5回以上<S> ○
- 3 区教育委員会・区立中学校、城東特別支援学校・鹿本学園・臨海青海特別支援学校と連携し普通科入学生への適切な事前相談や情報の提供、体験学習・見学の柔軟な受け入れ<S>◎
- 4 学科説明会・個別相談の計画的実施と入学者選考の円滑な実施<職能開発科> ◎

5 入学相談の円滑な実施、職能開発科入学者選考への協力<普通科> ◎

G 広報活動

《数値目標》情報発信は積極的であり、必要な情報が発信されている。

30年度A評価47.2%、B評価47.2%、Z評価2.4% (数値訂正)

31年度目標 A評価70%⇒A評価53.8%、B評価39.2%、Z評価2.3%

- 1 各種たよりの校内掲示2カ所設置、学年・学科は月2回以上更新<教務部、各担当> ◎
- 2 教育活動を積極的にホームページに掲載する。月3回以上更新する。<I> ◎
- 3 校外の掲示板の設置を検討する。<M> ◎

H 組織・体制

《数値目標》学校経営計画はわかりやすく、校長を中心とした学校経営が行われている。/校内の学校設備の安全は、十分に図られている。/電話や窓口の対応等は、適切になされている。

30年度A評価46.4%、B評価41%、Z評価9.9%

31年度目標 A評価60%、Z評価5%以下 (特に学校経営計画、施設の安全についての評価向上) ⇒A評価50.2%、B評価39.8%、Z評価5.9%

1 組織運営

- (1) 5S (整理・整頓・清掃・清潔・習慣) に基づく安全で明るくきれいな学校づくり 生徒の作品の展示・更新<M、技能主任、L、I、作業班、美術科等> ○
- (2) 生徒の模範となるべき挨拶・接遇、適切な対応、研修の実施。○
- (3) 学校事故ゼロを目指す。○
 - ①保有個人情報紛失事故ゼロ 「保有個人情報安全管理基準」に基づく情報の適正管理。TAIMS (校務用パソコン) の安全な活用。情報セキュリティ研修1回<I> ◎
 - ②服務事故ゼロ 全校悉皆研修年3回実施、朝会を活用した随時啓発。<管理職>◎
- (4) 業務の適切な進行管理 年間で進行管理・実施回数管理が必要な業務については、マネジメントプログラムを活用し、評価・改善を年3回実施。<副校長、主幹教諭、主任>△

2 行政系職員

- (1) 都民サービスの窓口として、事務処理能力や対応力、接遇力を向上させる。△
- (2) 学校経営支援センター契約等によるコスト削減意識を徹底し、予算の有効活用と適正執行を図る。センター契約60%目標 ○
- (3) 特別支援教育の理解 部活動への協力、諸訓練・研修への参加 1回以上 ○
- (4) 校内の日常点検・点検、整備美化、迅速な修理対応 ◎
- (5) 省エネルギー (節電・節水等) の徹底・啓発 平成22年度比マイナス10%目標 ○

3 働き方改革

- (1) ライフ・ワーク・バランスの推進。ハラスメント防止研修。ノー会議ディ月2回以上設定。マイ定時退庁日の設定推奨、20時以前退庁を推奨<副校長>◎
- (2) 夏季休暇・年次有給休暇等の計画的取得。「一斉閉庁日」5日間<副校長>◎
- (3) ICT機器を活用し、会議・実務を効率化。校内掲示板の積極的な活用。<I>
- (4) 障害のある人や学校周辺地域への貢献活動、部活動等一人一回以上<集計：副校長>△

I 研究・研修・OJT

- 1 教科・生活・進路指導や学習指導要領等、専門性向上のための研修4回以上。<各分掌> ◎
- 2 様々な障害に適応したアセスメントの知識の獲得、指導プログラムの立案、説明力の向上。ミニ支援会議への参加3回以上 (ギャラリー参加を含む)。<E> △
- 3 城東特別支援学校との教員研修の相互実施 5名以上派遣<副校長>◎
- 4 特別支援教育免許状取得の向上を図る。免許状未所有者の受講率100% <副校長>◎
- 5 自己申告書・週ごとの指導計画を活用したOJTの推進 ○